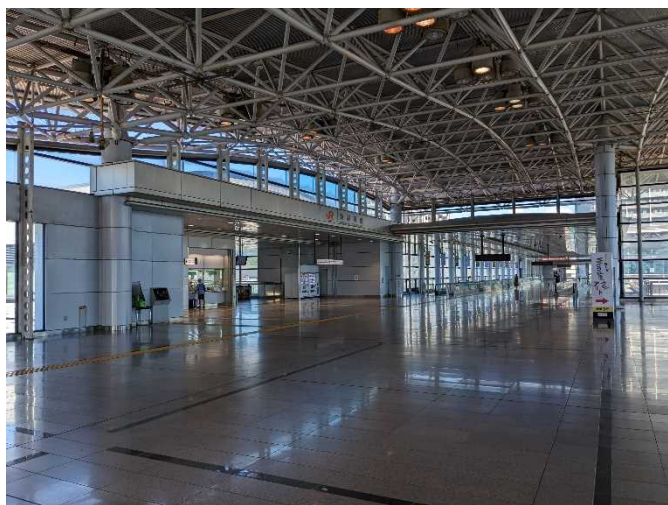


# ■ JR東静岡駅周辺を探索する

1993年度から進められた土地区画整理事業により、街路や駅前広場、公園緑地等の都市基盤や街区が整備され、1998年にはJR東静岡駅が開業、その翌年にはグランシップが開館した。

現状は高層マンションが連なるベッドタウンとなっているが、新たな構想として、南口正面駐車場には県による新中央図書館の建設が決まり進行中で、北口の広場では静岡市による新アリーナ建設が模索されている。実現すれば、駅の南北が一体となり、多様な交流と賑わいが生まれ、若者をはじめとする多彩な人々を魅了する「文化とスポーツの殿堂」が形成される。

10月27日（金）に、第65回建築士会全国大会「しずおか大会」がグランシップで開催される。JR東静岡駅周辺を探索してみた。



## ① JR東静岡駅コンコース

駅の南北を結ぶ橋上デッキは、延長72m、幅25m（最大46m）に及び、立体トラスは美しい曲線を描いている。橋梁・鋼構造工学に授与される土木学会田中賞を受賞し、橋上駅としての受賞は全国でも珍しい。



## ② 東静岡アート&スポーツ広場

約24,000㎡の土地は芝生広場やローラースケート場等が建つ。静岡市はプロスポーツやコンサートを開催できるアリーナ構想を模索している。



## ③ 大規模商業施設「MARK is」

駅の西側、国道1号沿いに「MARK is」は建つ。隣には日帰り温泉施設があり、週末は多くの来客で賑わう。手前に見えるのは東静岡大橋。



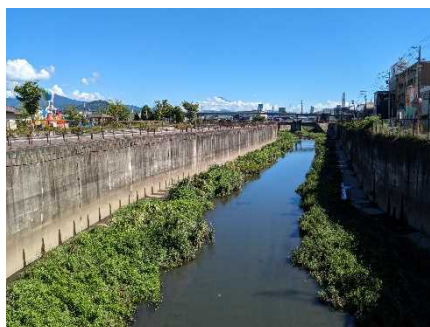
## ④ 新静岡県立中央図書館（建設予定地）

駅の南口、広大な平置き駐車場は新静岡県立中央図書館の建設予定地。現在基本設計がまとまり、2027年度の開館を目指している。（関連記事6・7ページ）



## ⑤ 古代東海道

グランシップの建設に伴う発掘調査で、奈良時代から平安時代に使われた古代東海道が発見された。遺構は100mに渡り舗装ブロックの真下1.5mに保存されている。



## ⑥ 大谷川放水路

1974年の七夕豪雨で被害を受けた巴川流域の治水対策として建設された。昨年9月の台風15号のときには、最高水位は8.23mに達し、約600万㎡を大谷海岸に放流した。